救急と総合診療のダブルボード

帯広市医師会
北海道社会事業協会帯広病院
鈴木（すずき）　喬之（たかゆき）

皆さんはダブルボードというものをご存じでしょうか？　二刀流ともいわれることもありますが、日本専門医機構が定める基本領域の専門医を２つ取得することを言い、個人の努力次第で取得が可能となっています。ダブルボード取得に際しては、救急と総合診療、総合診療と総合内科、整形外科とリハビリテーション科など、いくつかの診療科ではそれぞれの研修内容が被っていることもあり、１年程度の研修期間短縮が可能な場合もあります。

私は2020年に北海道大学を卒業後、初期研修は襷掛けで帯広協会病院と北大病院を１年ずつ行いました。３年目以降の進路について、父が旭川で内科を開業していることもあり、当初は総合診療科で家庭医療について学んでいこうと考えていましたが、研修医として救急外来を行う中で、救急への興味が湧き（当時U-NEXTで“ER緊急救命室”を観ていた影響も多分にありますが）、どちらを専攻するか悩んでいました。そんな時、札幌の栄町ファミリークリニックを見学した際に同院の先生方から「どっちもやったら良いんじゃない？」と言われたことをきっかけに、どうせならダブルボードを取得してみよう、と心を決めました。

その後はまず北大病院救急科へ入局して２年間の救急科研修を行った後、一度研修を中断し、2024年度から北海道家庭医療学センターへ入職して総合診療・家庭医療専門研修プログラムを開始し現在に至ります。今後は計４年間の総診プログラムを終えた後、再び救急科研修へ戻って残り１年の救急科研修を行い、救急科専門医と総合診療専門医を取得する予定です。

救急と総合診療研修を経験してみて、症状や疾患の種類、年齢を問わずに多種多様な患者に対応することや、地域医療に密接に関わるなどの類似点もあれば、重症例や超急性期を対象とする救急と、common diseaseを中心に地域住民の健康問題に向き合う総合診療／家庭医療などの相違点もあります。現在の超高齢社会の中では、双方の視点をもって診療にあたることの重要性をひしひしと実感しています。

見学に来る学生さんや研修医と話すと、将来の進路として救急と総合診療で迷っている人が結構多いことに気が付きました。まだまだ私自身研修中の身ではありますが、そうした後輩たちの背中を押せるロールモデルとなれるよう、今後も精進していきたいと思います。皆様どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

子育て会議に20年

岩見沢市医師会
岩見沢市立総合病院
佐藤（さとう）　俊哉（としや）

「岩見沢市子ども・子育て会議」に20年参加、自分の関わった分を振り返りました。

１．平成29年病児保育は岩見沢市立総合病院（以下「市立病院」という。）保育施設で、病後児保育は岩見沢ひがし認定こども園病後児保育ルームで実施。
２．市立病院院内保育施設を平成27年度開設。
３．在宅児童支援（ファミリー・サポート）を平成30年実施。
４．市民交流センター、子育て親子ひろば「ひなたっ子」、地域子育て支援センター、保健センター、幼児ことばの教室、であえーる交流広場を集約。こども・子育てひろば「えみふる」は平成28年開設、平成30年日本計画行政学会最優秀賞を受賞。
５．平成16年に開業小児科４件と市立病院小児科での輪番日曜救急当番を開始。年末年始とGWにも１回ずつ追加。
６．平成15年から市立病院小児科で子どもの心の相談外来開始。特別支援教育の会議に参加。
７．教育支援センター、不登校と発達支援センターを総合支援センターとし、小児科医を１人嘱託。
８．平成９年藁焼きによる喘息発作が頻発。平成11年JAは藁焼きの中止を決定。
９．北村・栗沢町合併後、低温焼却のダイオキシン発生防止のため高温焼却のゴミ焼却場新設。
10．集合住宅壁塗り工事の揮発性物質モニターを実施。
11．ハイリスク妊婦の支援、産後うつに対応、平成20年より市立病院小児科医が岩見沢児童相談所嘱託医を務め、平成26年より市立病院内にCAPS（児童虐待防止委員会）を発足。
12．外来、入院とも中学３年生まで小児医療費助成対象。
13．aABR（新生児聴覚スクリーニング検査）；平成31年より助成開始。
14．発達支援手帳（えみふる　ふぁいる）；令和元年より１歳６か月健診時に全員に配布。
15．アウトブレイク対応１；利根別川の氾濫防止護岸工事の行われた平成９～11年までの３年間にエコー30型ウイルスによる無菌性髄膜炎200名に対応。
16．アウトブレイク対応２；平成15～16年にVanBタイプのVRE多数発生に対応。
17．アウトブレイク対応３；平成18年入浴施設でのレジオネラ属菌発生を受け、循環配管の消毒方法のマニュアル作成。
18．アウトブレイク対応４；平成23年給食による1600名のサルモネラ属菌集団食中毒が発生、検査・治療介入し、新たな給食センターが開設。

現在、５歳児健診開始準備と来年の北海道中央労災病院との統合、３年後の新築移転、それに伴う市内の救急体制の見直しに関わっています。